

令和3年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立池雪小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

昨年度の授業改善推進プランでは、実験結果から考察する力を付けることをポイントとして挙げた。学習効果測定の結果では、「思考・判断・表現」の観点、記述式の回答形式で、ともに目標値・全国平均を上回っている。このことから、昨年度の授業改善推進プランが効果的に成果を上げたと考えられる。

(2) 課題

- ①全学年、「知識・技能」の観点で、目標値を下回った問題があった。学習のまとめや、既習事項の振り返りを通して、知識の定着をはかる。
- ②観察や実験の機会を確保し、生物の様子を理解し、実験の方法を身につけられるようにする。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和3年度結果	令和2年度結果
第5学年	標準スコアを上回っており、昨年度よりも伸びている。	/
第6学年	標準スコアを上回っており、昨年度よりも伸びている。	

(2) 分析（観点別）

4年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全体の平均正答率は、目標値を上回っていたので学習の状況は概ね良好といえる。	全体の平均正答率は、目標値を上回っていたので学習の状況は概ね良好といえる。	全体の平均正答率は、目標値を上回っていたので学習の状況は概ね良好といえる。

5年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全体の平均正答率は、目標値を下回っていたので改善が必要である。	全体の平均正答率は、目標値を上回っていたので学習の状況は概ね良好といえる。	全体の平均正答率は、目標値を上回っていたので学習の状況は概ね良好といえる。

6年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全体の平均正答率は、目標値を上回っていたので学習の状況は概ね良好といえる。	全体の平均正答率は、目標値を上回っていたので学習の状況は概ね良好といえる。	全体の平均正答率は、目標値を上回っていたので学習の状況は概ね良好といえる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 生物に関する学習では、実際に昆虫を育てる、虫眼鏡を使って観察を行うなど、児童が実物に触れる場面を確保する。児童が、観察や飼育の方法を身に付けることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習したことを活用して、考える問題に取り組む。児童が、実験の条件を比較したり、既習事項に関連付けたりしながら、根拠をもって判断できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 見通しをもって学習に取り組むことができるように、「事物・現象との関わり」、「問題の見いだし」、「予想・仮説」、「実験計画の立案」、「実験・観察」、「結果の処理」、「考察・推論」、「結論」などの、単元学習の流れを定め、それに従って学習を進めるようにする。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 「生命」「地球」を柱とした学習では、実物を観察する機会を十分に確保する。生活経験や既習内容との関わりを想起させ、共通点や相違点を意識して学習できるようにする。 「粒子」「エネルギー」を柱とした内容では、できる限り少人数単位での実験できるようにする。器具の正しい取り扱いに関する知識・技能の習得を目指す。 前年度までの学習内容の振り返りつつ、該当学年の指導を行い、系統立てた指導を行うことで確かな学力の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 5年生では、根拠のある予想や仮説をもとに、解決の方法を発想する活動を思考・判断・表現の力を伸ばす重点とする。知りたいことと想定される結果から、必要な条件を考え、表現する活動を充実する。 6年生では、自然の事物・現象から見いだした問題について追及し、より妥当な考えをつくりだすといった問題解決の力を育成することに重点を置く。 	<ul style="list-style-type: none"> 見通しをもって学習に取り組むことができるように、「事物・現象との関わり」、「問題の見いだし」、「予想・仮説」、「実験計画の立案」、「実験・観察」、「結果の処理」、「考察・推論」、「結論」などの、単元学習の流れを定め、それに従って学習を進めるようにする。 粘り強い取組を行おうとする側面については特に、「事物・事象との関わり」と「問題の見いだし」の場面を中心に育成を図る。 自らの学習を調整しようとする側面については、特に「実験観察」「結果の処理」「考察・推論」の場面を中心に育成を図る。